



風は海から

令和4年9月1日
令和4年度
横浜市立西富岡小学校
学校だより9月号 No.5

一步踏み出す勇氣

横浜市立西富岡小学校
校長 黒田 由希子

久しぶりに学校に子どもたちが戻ってきました。教室から聞こえる楽しそうな声や校庭で遊ぶ姿に、やはり学校には子どもたちの存在が欠かせないということを実感しました。

この夏は連日厳しい暑さでした。また、行動制限がなかったとは言え、新型コロナウイルスの感染もなかなか収まらず、夏休みを思いっきり満喫するまでには至らなかったと思いますが、子どもたちの話から、本を読んだり、自由研究や工作をしたり、学習を振り返ったりなど、それぞれ実りある夏休みを過ごしたことがうかがわれました。学校はこれから前期のまとめの時期となります。夏休みで得た力をいかして、学習や生活のまとめをしていきたいと考えています。



先日、プロに転向されたフィギュアスケートの羽生結弦さんが、北京オリンピックで行ったショートプログラムに再挑戦する番組を観ました。羽生さんにとって北京オリンピックは3連覇がかかっている大会でした。4年に一度の大舞台。決意をこめて臨んだショートプログラムでしたが、スケート靴が氷にひっかかり、予定していた4回転ジャンプが飛べず、よい成績を残すことができませんでした。羽生さんにとって、このショートプログラムは、失敗したという嫌な思い出が残り「こわくて、なかなか踏み出せずにいたプログラム」だと話されていました。しかし、あえて滑ることで、失敗を乗り越え、前に進むことになると挑戦する理由をお話されていました。果敢に挑戦し、見事滑り切った羽生さんは、自分を越えることができたのではないのでしょうか。学校でも、家庭でも、同じような場面に出くわすことがあります。誰も失敗したことはそのままにしておきたい、触れないでおきたいと思います。しかし、結果はどうであれ、挑戦すること、挑戦し続けることで、過去の自分を越え、新しい自分に出会うことができるのだと羽生さんを見て思いました。できない、分からない、失敗するからやりたくないということではなく、たとえ失敗したとしても、勇氣を出して一步踏み出すことが大切だということを、子どもたちにも伝えていきたいと思います。

保護者の皆様、地域の皆様が、夏休み中の子どもたちの安全を見守ってくださったおかげで、無事に夏休みを過ごすことができました。本当にありがとうございます。今後も引き続き、学校へのご支援、ご協力をいただけますよう、どうぞよろしくお願い致します。